

川内村 学生チャレンジ サポート事業

<https://x.gd/KIUMz>

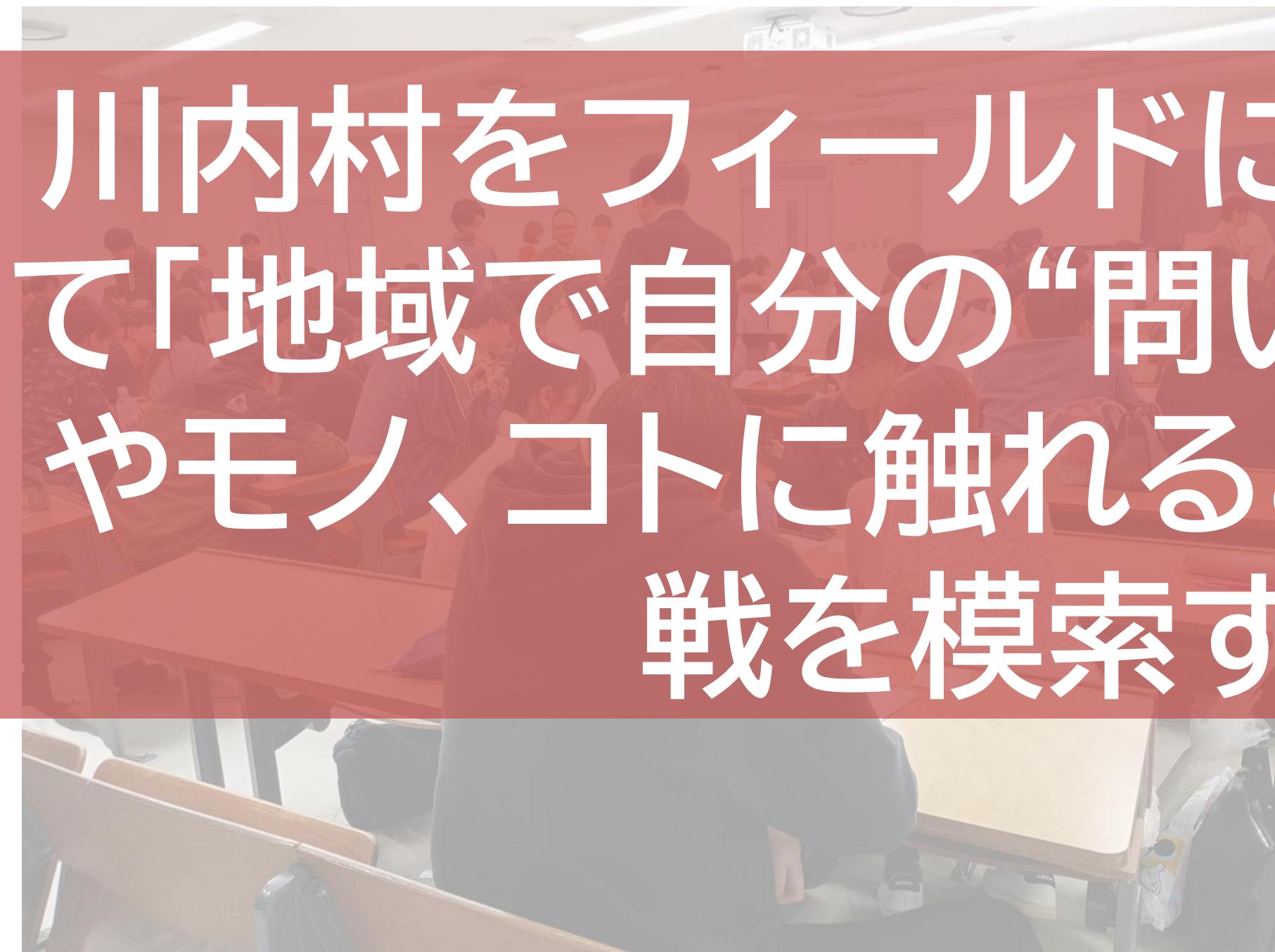


令和7年 7月 3日 川内村
株式会社デジタルかわうち



登壇者の紹介

学生チャレンジサポートとは



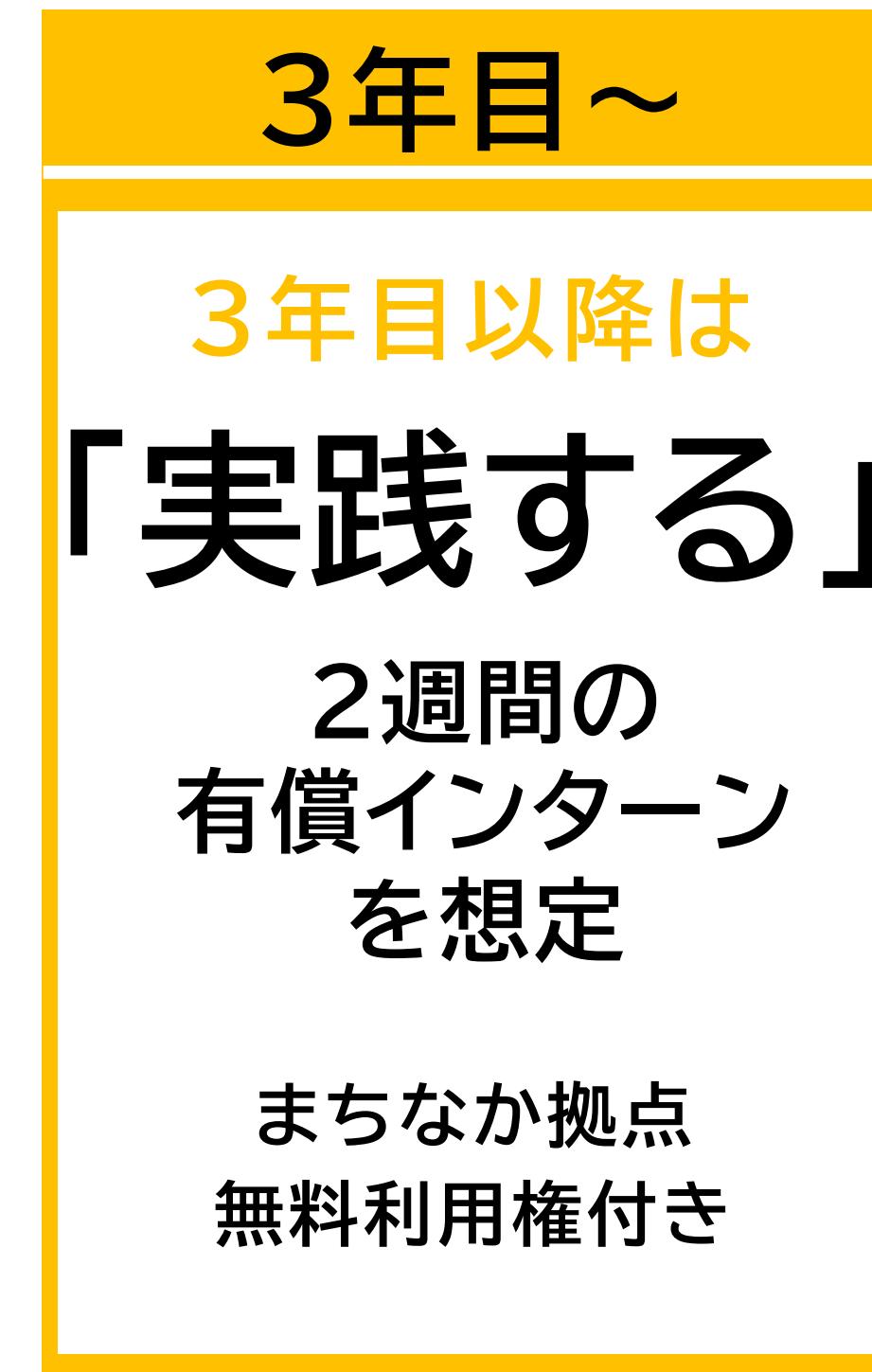
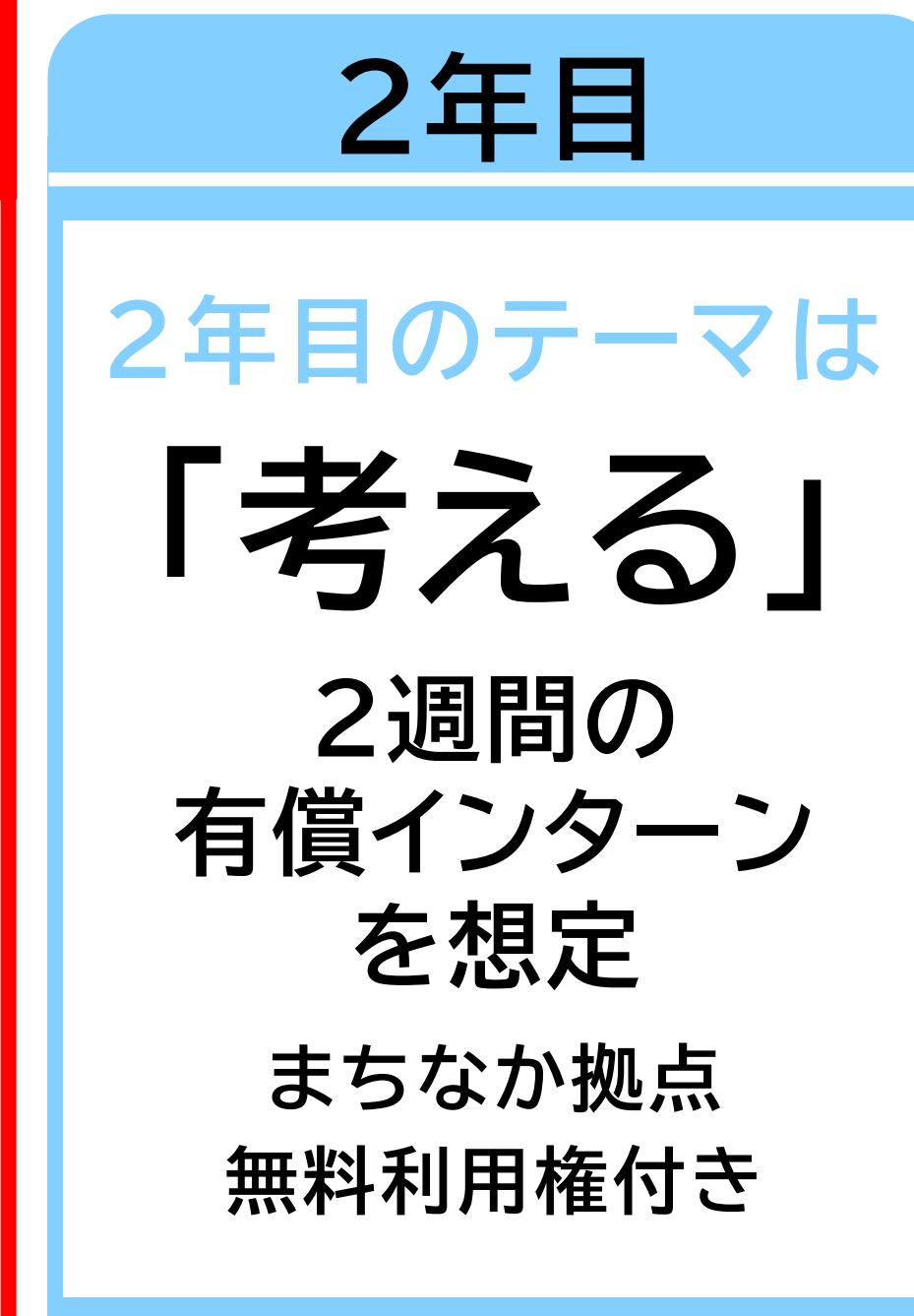
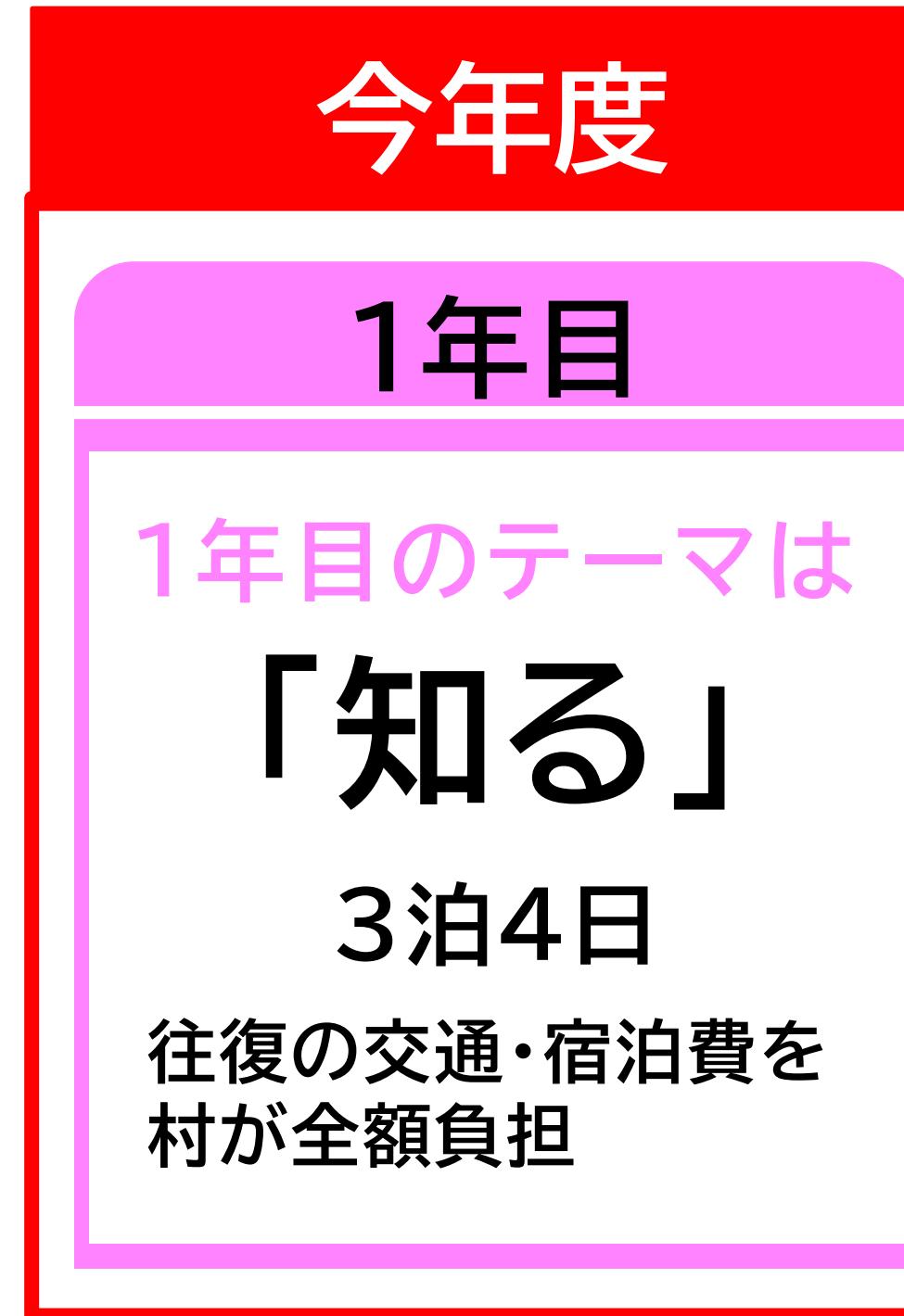
川内村をフィールドに3泊4日の滞在を通して「地域で自分の“問い”と向き合いながら人やモノ、コトに触れることで生きた学びと挑戦を模索する場」です。

<https://x.gd/KIUMz>



学生チャレンジの年次ステップ

「知る」→「考える」→「実践する」の3か年事業





川内村について

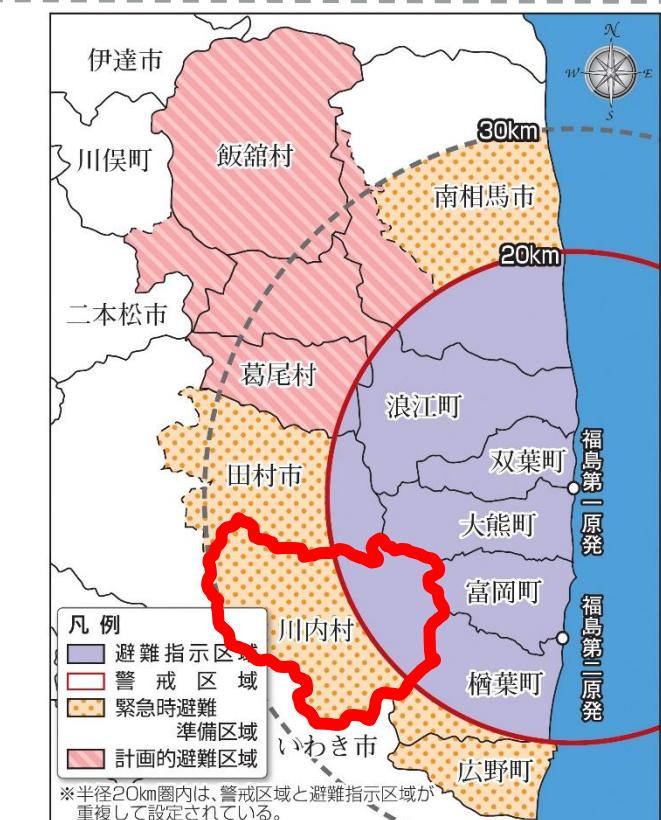
福島県川内村について



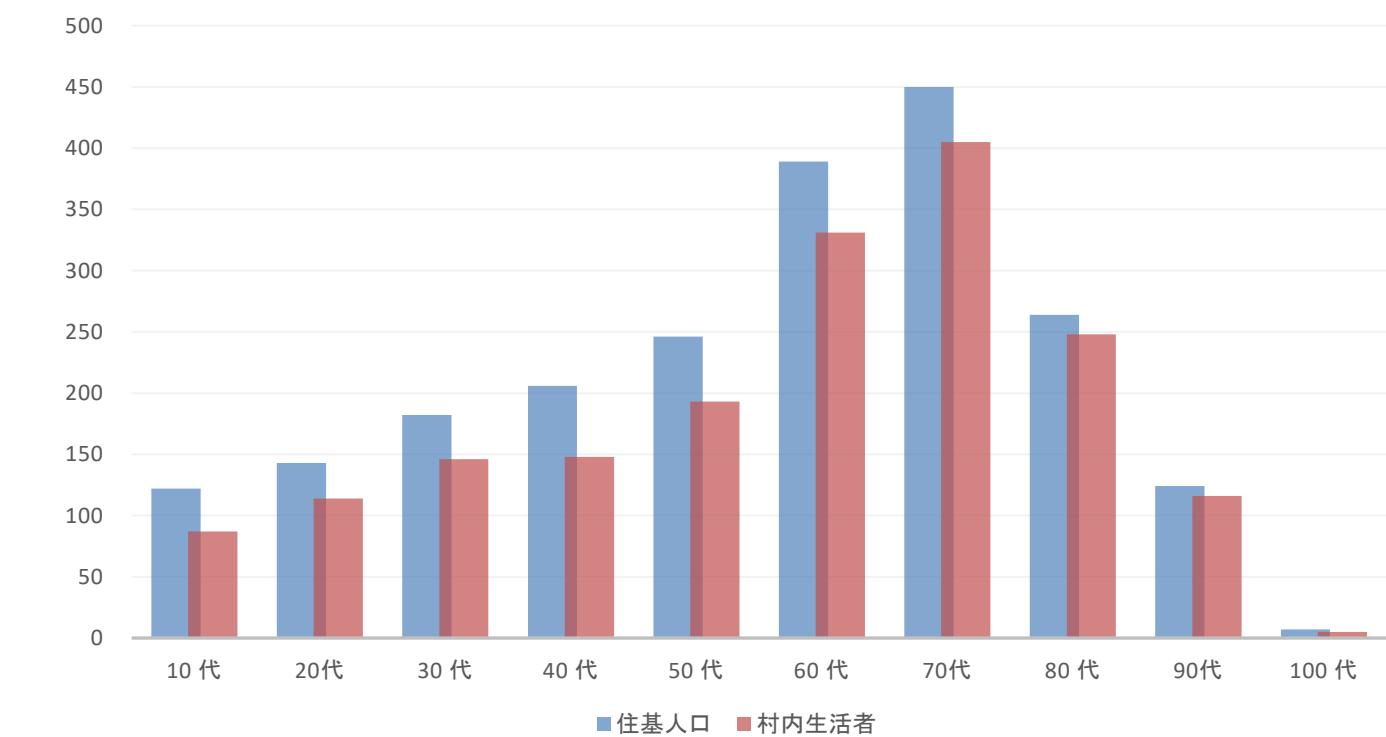
長福寺を望む田園風景（上川内字三合田地区）

川内村の概要とあゆみ

福島県双葉郡川内村は、阿武隈高地の最高峰「大滝根山」の東斜面に立地し、400m~900mの起伏の多い山岳に囲まれています。総面積の87%が林野であることから、林业や農業（水稻や蕎麦、ブドウ）が盛んな、自然豊かでのどかな村です。平成23年3月11日の東日本大震災および東京電力福島第一原子力発電所事故により、川内村は全村避難を余儀なくされ、一年の間、村の立ち入りは制限されました。その後、平成24年に役場機能を村に戻し、平成28年には村内全域の避難指示が解除されました。令和7年6月1日現在の住基人口は2,208人ですが、居住者は1,852人ほどとなっています。高齢化率は48.1%となっています。



年齢別人口と居住者数



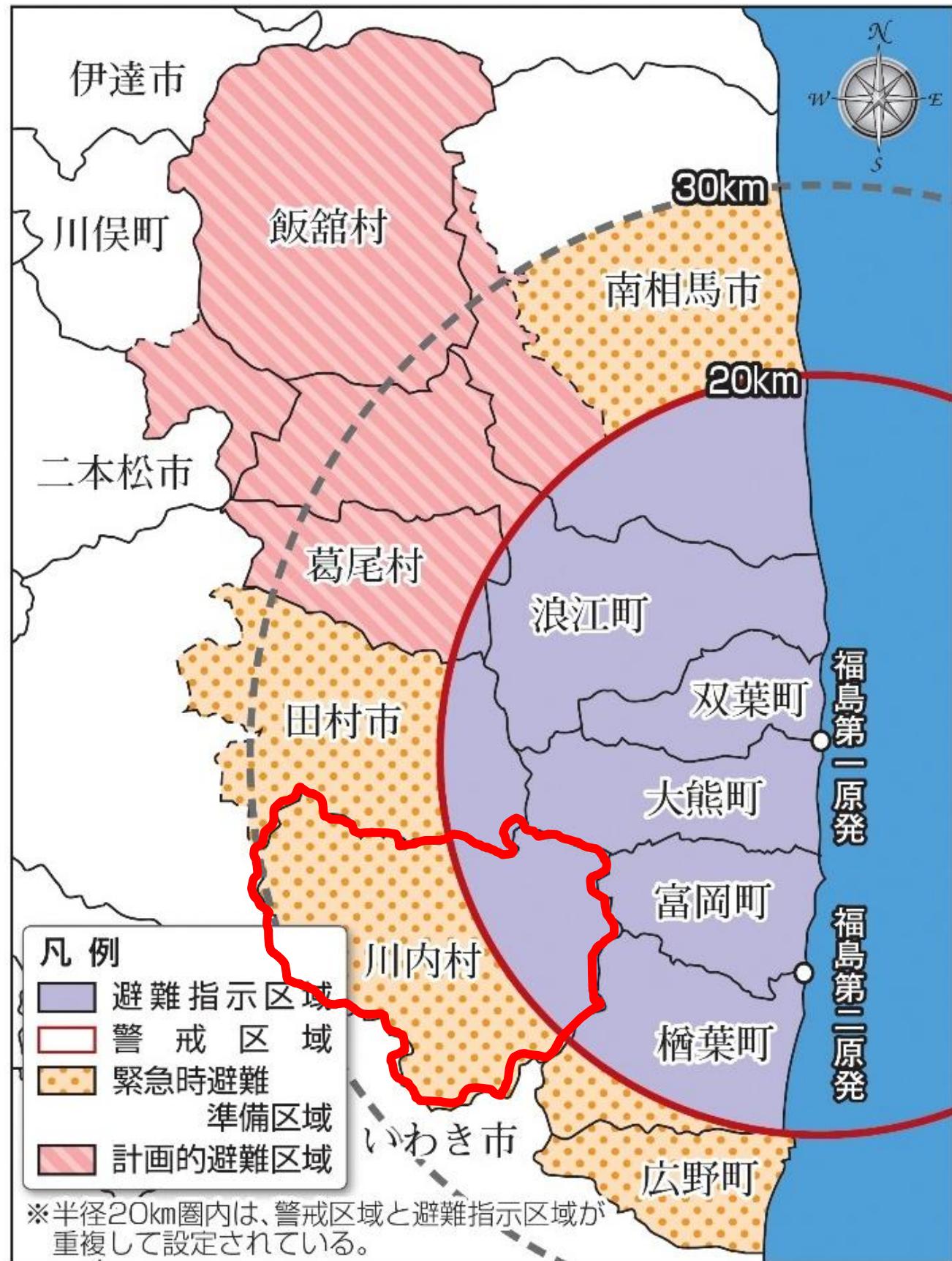
2011年3月11日
東日本大震災と原発事故



全村避難で 村から「人」がいなくなつた



住民の多くと、主要な公共施設が郡山市などへ避難。



避難先自治体	主な施設・滞在形態
郡山市	ビッグパレットふくしま (仮役場・仮校舎)など
いわき市	公営住宅・親族宅など
田村市	一部民間住宅・親族宅など
福島市・会津若松市 ほか	一時的避難、親族や知人宅
福島県外	東京都、埼玉県、新潟県などへ 自主避難

2012年1月
避難区域で最も早い「帰村宣言」
“戻れる人から戻ろう”



2016年6月
避難指示の全面解除により
道路・住宅・施設の整備が進む



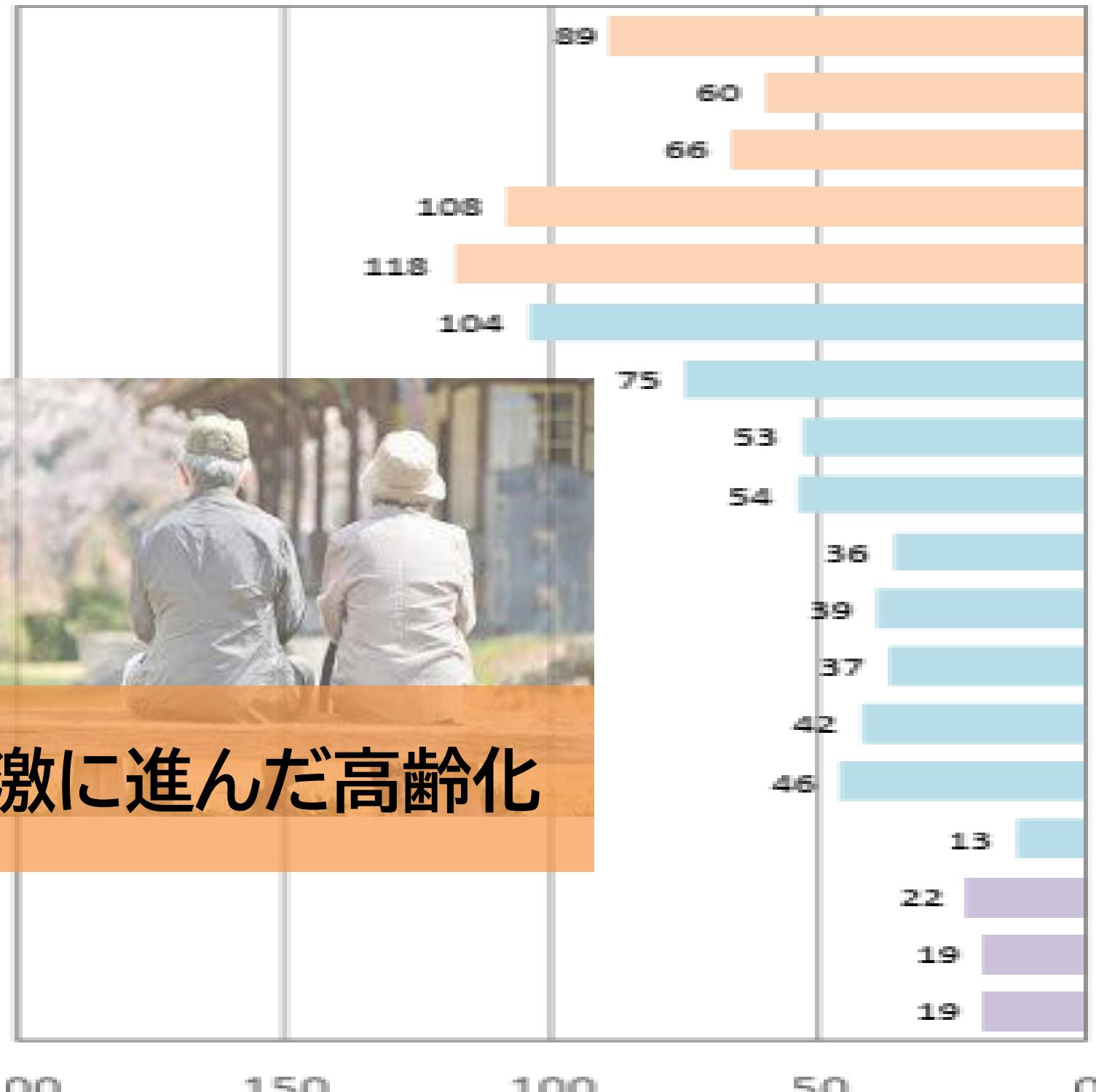
川内村で起きた変化と課題

川内村で何が起きたのか

中山間地域での震災・原子力災害
放射線という目に見えない恐怖
世界でも類を見ない複合災害を経験

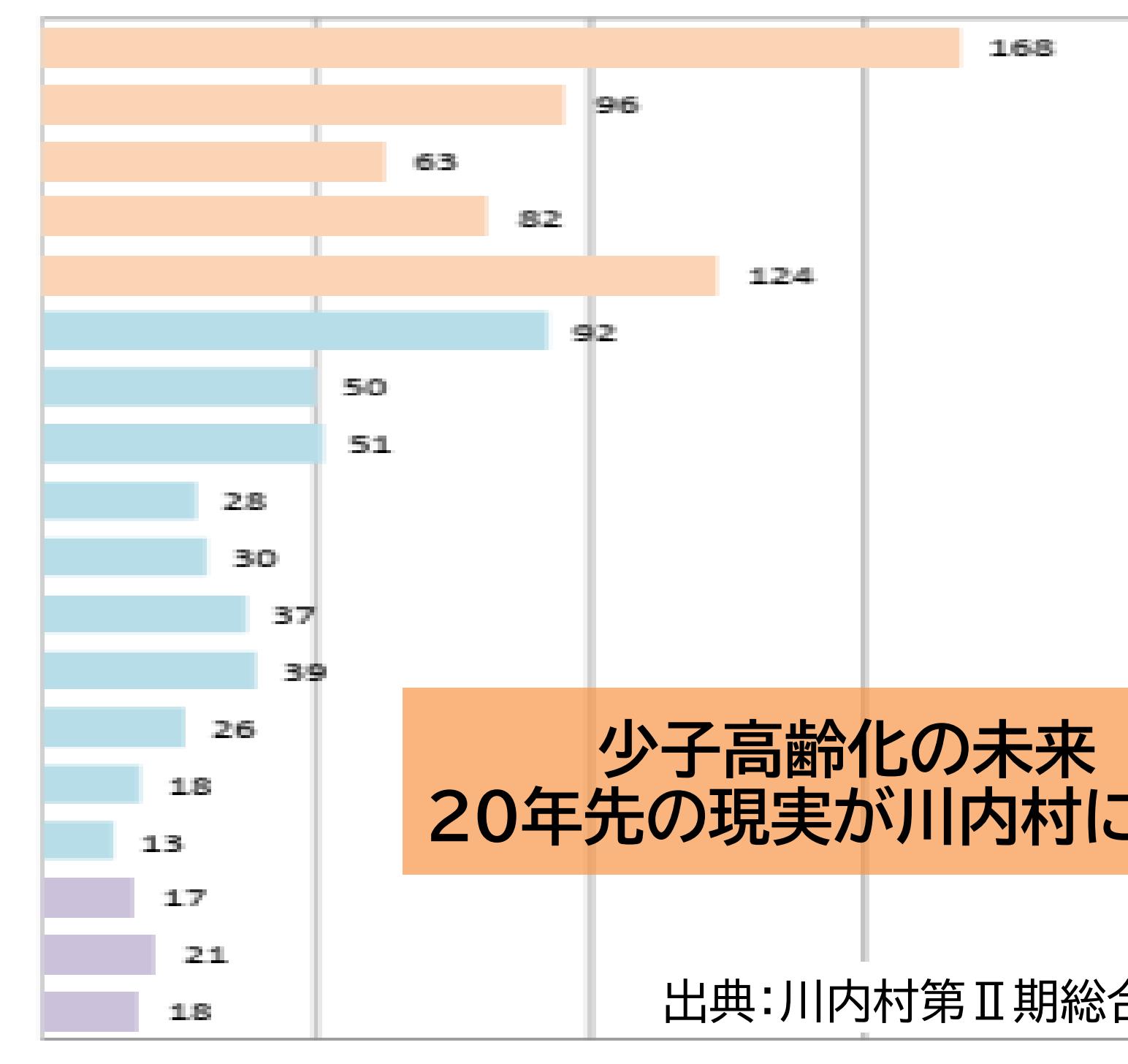
川内村で何が起きたのか

男



急速に進んだ高齢化

女



少子高齢化の未来
20年先の現実が川内村にある

出典：川内村第Ⅱ期総合戦略

川内村が直面した課題

－人が戻らない、地域が保てないという現実－

住民の帰還率は限定的

→ 若年層の帰還が特に少ない

地域経済の担い手が不足

→ 農林業の人手・技術継承が困難

学校・医療・インフラの縮小

→ 安心して暮らすための基盤が不安定



地域の課題と出会い、自分の“問い合わせ”を持つ

課題の整理

震災・原発事故により村の人口減少や高齢化、地域インフラの縮小が急速に進行
それは遠い未来の話ではなく、“今、川内村で起きていること”。



「このままでは地域がなくなってしまうかも？」
「若者がいないと、未来はつくれないのでは？」

ここからは、「どんな問い合わせを深めてみたいか」を考える時間。
あなた自身の関心と結びつくリアルなテーマが待っています。

- ①地域の歴史・背景から生じる課題
- ②自分ごととして考える(興味・疑問・仮設)
- ③現地に行って確かめる

なぜ、“川内村”でチャレンジするのか？

川内村には、あなたの問い合わせを“動かせる”理由があります。

「ベースにあるのは、人の温かみ」

新しいアイデアが受け入れられる風土(クラフトジン等の新規事業者)

会いたい人に対する距離感(村のステークホルダーと連携)

思いついたことをすぐ実装できる(地元事業者のフォローアップ体制)

川内村は、あなたの“やってみたい”が実現できる場所です。
その第一歩を次の5つテーマから選んでみてください。

川内村未来デザイン会議

川内村未来デザイン会議は、今後の川内村を持続させるために「何を残し、何を守り、何を取り入れ、何を進めるのか」という取捨選択の視点が必要となることを踏まえ、行政だけではなく、住民や村に関わる人の意見や力を取り入れ、様々な視点から村づくりを検討・実行していく会議体です。メンバーは村づくりを自分事として捉え、村での生活を楽しみながら、川内村の特性や資源を活かした未来デザインプロジェクトを組成し、実行をしています。

【課題解決の現場を知る】

空き家の可能性を活かすことで“地域のつながり”を知る

テーマ①空き家等利活用

地域の眠っている資源を
住まいと交流の場へ

＼参加目的／

地域の暮らしを支える拠点を、
企画から一緒に考えてみよう。

空き家の可能性を活かして、
新しい繋がりを生み出す体験ができます。



図書環境づくりを通して“学びの場”的力を知る

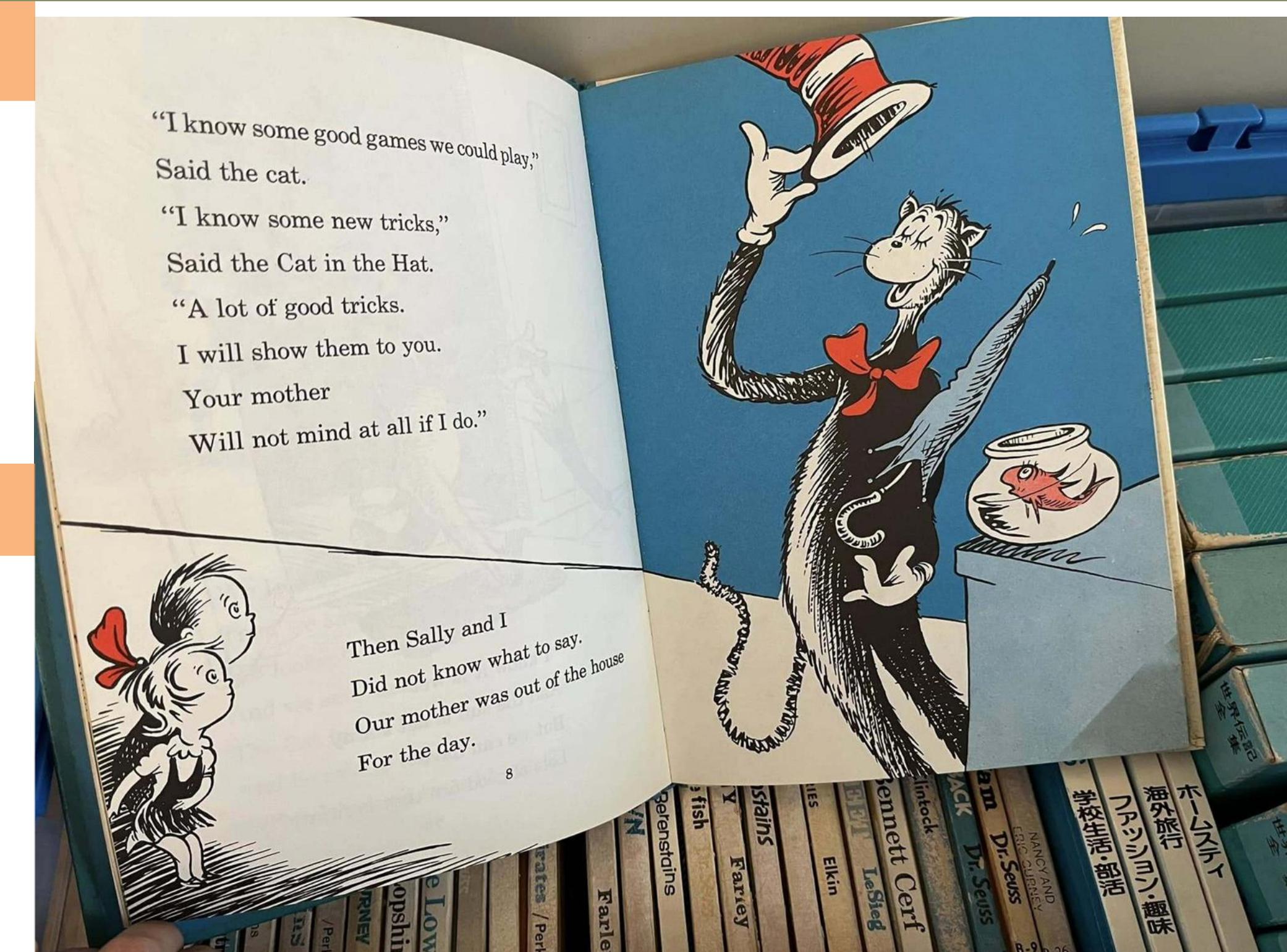
テーマ②図書環境整備

子ども達のために
村に快適な図書環境を

＼参加目的／

どんな本棚が、子どもたちの
未来を変えるだろう？

本と空間づくりを通して「学びの場」
の再設計に関わることができます。



子育ての現場に関わることで“地域の未来”を知る

テーマ③子育て支援

子どもと村の“これから”
と一緒に考える

＼参加目的／

子どもたちが安心して育つ地域、
子育てしたくなる地域ってどんな場所？
子育てと教育を支える地域の仕組みを一
緒に考えてみませんか。



特産品づくりを通して“地域資源の可能性”を知る

テーマ④酒の村

地元の素材で
世界にひとつ一杯を

＼参加目的／

地元の素材から“村のブランド”をつくる。
ワインやクラフトジンの事業者に
関わりながら、魅力発信にチャレンジ！



自分の問い合わせ掘り下げることで“学びの意味”を知る

テーマ⑤あなたの問い合わせが発点。

川内の今を「あなたの目線」

で考えてみる

＼目的／

自分だけの“問い合わせ”を持ち、動き出す力を育む
川内村を歩き、話し、感じながら、
モヤっとした感覚を言葉にしていく。
ここから、自身のプロジェクトが始まります。
先輩やメンターと一緒に形にしていきましょう。



日程(案)と支援体制

日程表 令和7年9月9日(火)～12日(金) 3泊4日

	午前	午後	
9/9(火)		川内村到着 オリエンテーション 村内案内	
9/10(水)		復興の”今”を知る 村長による談話 グループワーク	サポートメンバーが 伴走支援
9/11(木)	グループワーク	グループワーク 中間発表	
9/12(金)	グループワーク 成果発表	振り返り 帰宅	

初日
9/9(火)

- ・オリエンテーション
- ・村内案内



暮らしの場をめぐることで“地域の輪郭”を知る

オリエンテーション・村内案内

【この時間の目的】

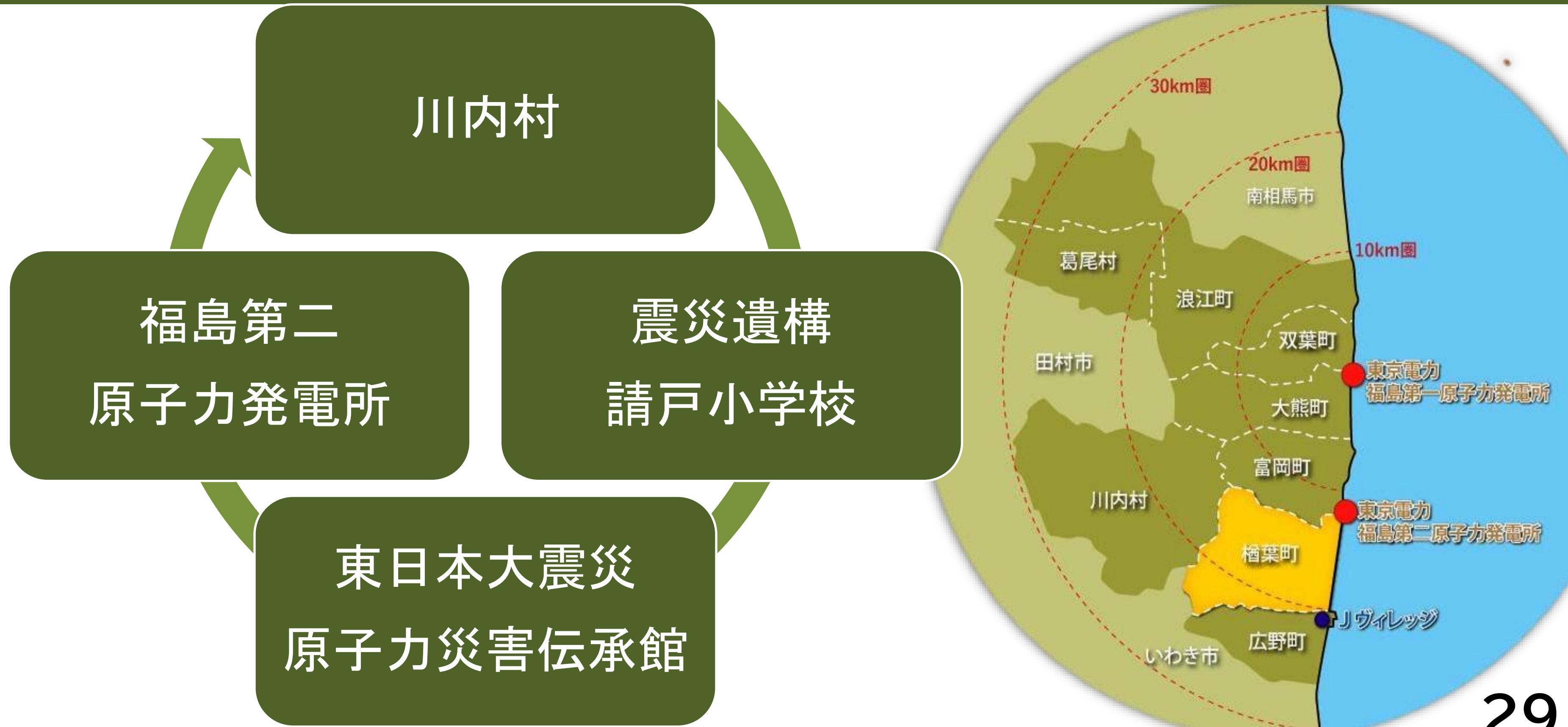
川内村の日常を歩いて、見て、
暮らしの輪郭と人の気配を感じること。
“ここで暮らす人”をイメージできるよう
なるための時間です。



2日目
9/10(水) •復興の”今”を知る
•グループワーク



復興の”今”を知る



避難の記録をたどることで“命を守る判断”を知る



震災遺構とは、被災当時の状態を後世に伝える為に保存された建造物や施設の総称です。

請戸小学校で震災当日に何が起きたのか。

“奇跡の避難”的足跡を辿れます。

原発事故の教訓を学ぶことで“複合災害の現実”を知る



福島にしかない原子力災害の経験や教訓を目の当たりにできる施設です。

当時の状況と、今も終わりの見えない、福島県が経験した”複合災害”の現実を知る為の、非常に重要な施設です。

現地の風景に触れることで“震災後の現実”を知る



残念ながら原子力発電所に入る事は出来ませんが、

“目で見える距離”

に、その施設があるという事実。

現地の人にとっては、特別な何かではなく、今も目の前にある現実なのです。

地域の“今”を見て感じたことで“自分の問い”を知る



被災の現場を歩き、
再生の歩みを見て、
地域の“今”に触れてきました。

この先は、自身が感じた
「違和感」や「問い」
をグループワークを通じて言
葉にする時間です。

地域のトップと語ることで“まちのリアル”を知る

村長による談話

【この時間の目的】

川内村の“これまで”と“これから”について、村長から実際の言葉で聞く時間です。政策や課題、地域のリアルな意思決定の背景に触れます。



出典：川内村ホームページより

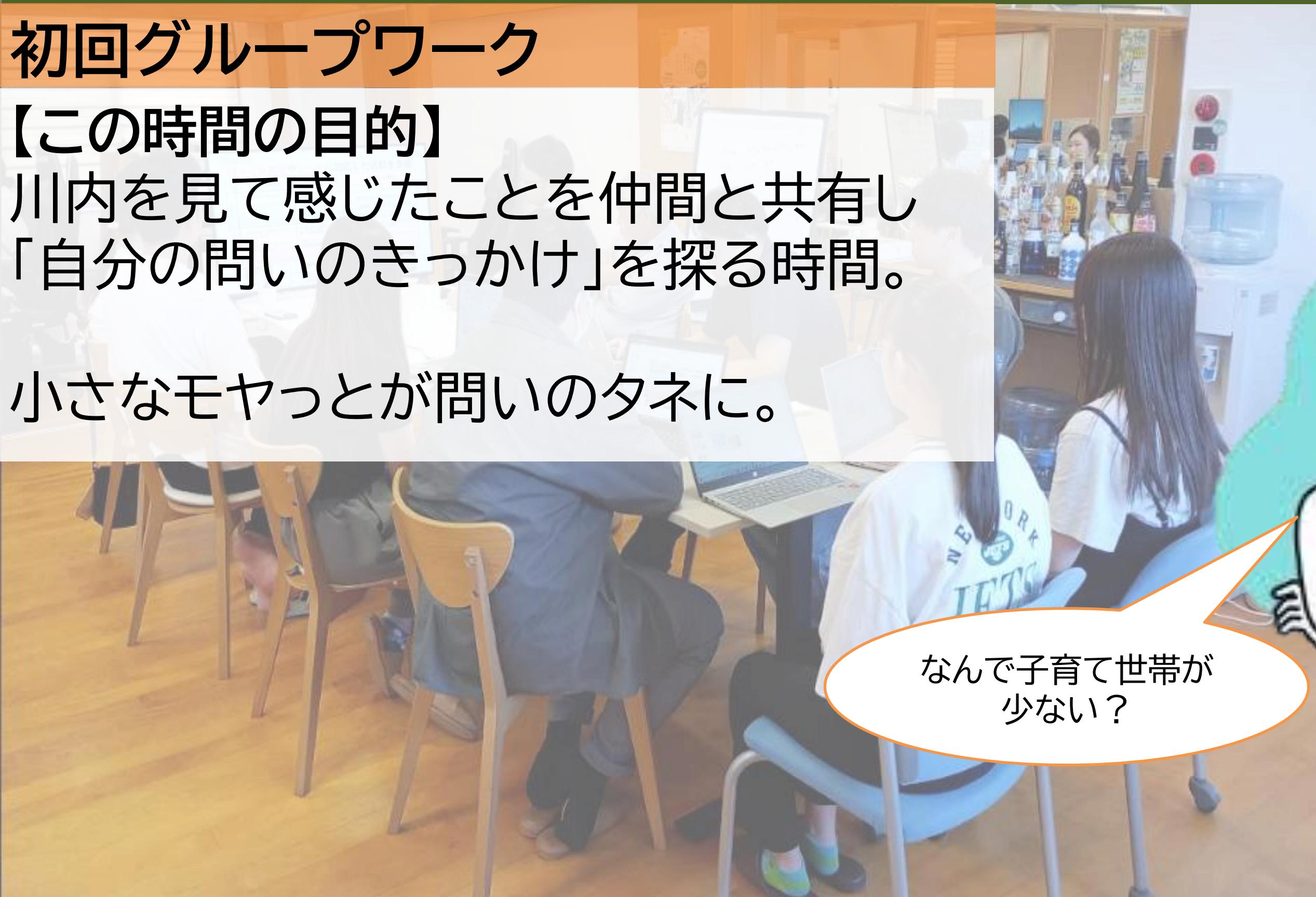
仲間と共有することで“問い合わせのきっかけ”を知る

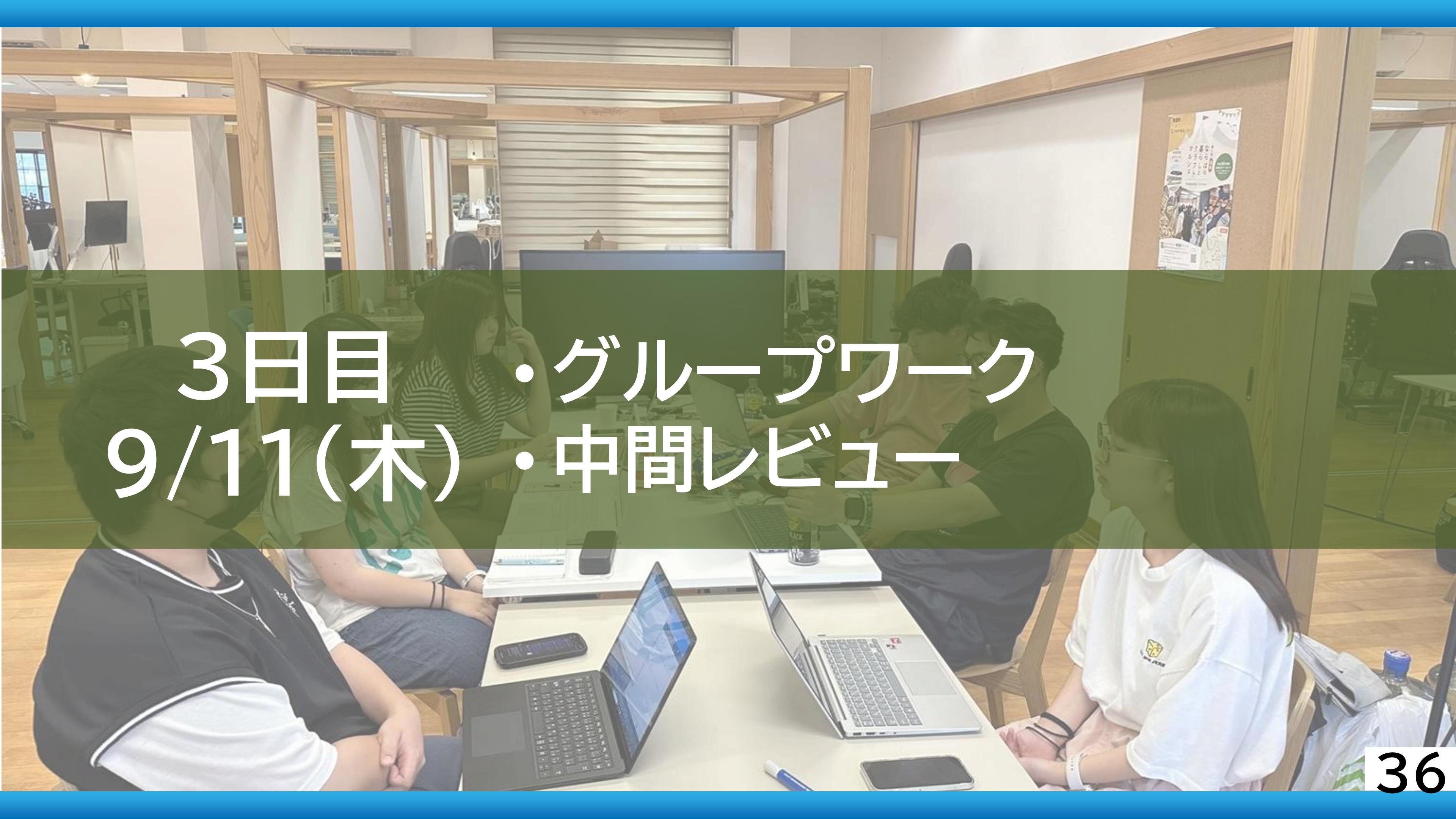
初回グループワーク

【この時間の目的】

川内を見て感じたことを仲間と共有し
「自分の問い合わせのきっかけ」を探る時間。

小さなモヤっとが問い合わせのタネに。





3日目
9/11(木)・グループワーク
・中間レビュー

仲間と対話することで“問い合わせの深まり”を知る

グループワーク⇒中間レビュー

【この時間の目的】

仲間の問い合わせと自分の問い合わせを重ねながら、チームとして深めたいテーマの「軸」を見つける。

試行錯誤の時間です。



「個人の問い合わせ」を
「チームの問い合わせ」へ

整理して
対話して
言語化する

たくさん悩む
のも大切

4日目
9/12(金)

- ・グループワーク
- ・成果発表
- ・振り返り

自分の経験を言葉にすることで“気づきの広がり”を知る

グループワーク⇒成果発表

【この時間の目的】

チームで育ててきた問い合わせやテーマを、他の仲間に向けて発信し、自分たちの学びを“見えるかたち”にしましょう。

発表項目(例)

- ① チーム名(ニックネームでもOK)
- ② 自分たちの問い合わせ
- ③ その問い合わせが生まれた背景
- ④ 深めた視点・広がった見方
- ⑤ 次に考えたいこと

➤ 発表はゴールじゃなくて、学びを持ち寄る“対話のスタート”。

受け入れ体制と支援内容

往復交通費



各大学を起点とした
最短距離で算出

宿泊費用



基本的に村内の
宿泊施設を利用
(朝夕食付)

活動拠点



(一社)かわうちラボ
にしいろ等を予定

村内移動



(株)デジタルかわうち
社員が社用車で送迎

リスク対策



怪我等のリスクに
備えて保険に加入

サポート



川内村役場職員
(株)デジタルかわうち社員が
メンターとして伴走

私たちがサポートします



川内村役場
総務課DX推進室

秋元喜夫



川内村役場
総務課DX推進室
(地域おこし協力隊)

岡本奈美佳

シニアメンター
川内村地域活性化起業人
株式会社プロミッショング 代表取締役
中村貴彦



メンター
株式会社デジタルかわうち
取締役
片岡慎太郎



株式会社デジタルかわうち(地域おこし協力隊)
サポートリーダー
中野航太



サポートメンバー
飯島瑞稀

大島眞詞

